

本調査研究は、モーターボート競走公益  
資金による財団法人日本船舶振興会の補助金を  
受けて実施したものです。

# 宮崎県下の主要港湾における海上輸送を中心とした 運輸交通網の整備のあり方に関する調査研究

## — 報 告 書 —

平成3年3月

財団法人 九州海運振興センター

## は し が き

本報告書は、当センターが財団法人日本船舶振興会の平成元年度から2ヵ年にわたる補助事業として実施した「宮崎県下の主要港湾における海上輸送を中心とした運輸交通網の整備のあり方に関する調査研究」の成果をとりまとめたものである。

宮崎県は、九州東南部に位置し、かつ直接外洋に面しているため、首都圏、大都市圏への海上距離では九州各県の中では最も近いという地理的特性を有している。

宮崎港は、平成12年を目標年次として着々と港湾整備が進められ、平成2年4月には宮崎港～大阪港のフェリー航路が開設され、同港は、九州縦貫自動車道、国道10号線と直結しており、また、拡張整備が進む宮崎空港とも隣接するなど、県内外とのアクセスに優れており、今後、大型船舶の就航等により、九州東南部の旅客輸送・貨物輸送に大きな変化を及ぼすことが予想される。

本調査では、このような状況の中で、港湾整備に伴う宮崎・細島両港のフェリー海上輸送の新たな動き、及び特徴と課題、並びにその取り組みと今後の展望と政策課題等を明らかにしたものであり、この報告書が関係者の方々にいささかなりともご参考になれば幸いである。

おわりに、本調査研究を実施するにあたって終始ご指導、ご協力をいただいた宮崎産業経営大学米山教授をはじめ委員各位、関係官公庁並びに調査にご協力いただいた関係の方々に、深く感謝の意を表する次第である。

平成3年3月

財団法人 九州海運振興センター  
会長 邑本 義一

『宮崎県下の主要港湾における海上輸送を中心とした運輸交通網の  
整備のあり方に関する調査研究』

委 員 名 簿

(順不同 敬称略)

委員長	米 山 譲	宮崎産業経営大学経営学部教授
委員	藤 田 武彦	第四港湾建設局企画課長
〃	中 世 享	宮崎県企画調整部長
〃	石 田 真一	宮崎県土木部長
〃	田 川 清一	(出)宮崎県トラック協会専務理事
〃	本 條 敦巳	(出)宮崎県観光協会常務理事
〃	日 高 諦進	宮崎県経済農業協同組合連合会参事
〃	松 尾 勝	九州旅客船協会連合会専務理事
〃	黒 木 雅也	九州運輸局運航部長
幹 事	坂 下 貞美	九州運輸局宮崎陸運支局長
〃	北 島 光雄	九州運輸局細島海運支局長
〃	谷 繹 義	九州運輸局油津海運支局長
〃	徳 永 進彦	九州運輸局運航部輸送課長
〃	岡 崎 宏	九州運輸局企画部貨物流通企画課長
	(末 次 継 一)	
事務局	河 野 芳 人	九州運輸局運航部輸送課補佐官
〃	岡 崎 賢 次	九州運輸局運航部輸送課専門官
〃	船 本 真 二	九州運輸局企画部貨物流通企画課補佐官
〃	弘 中 吉 昭	(出)九州海運振興センター調査役
集計解析	齊 藤 実	(株)日通総合研究所経営研究部 経営分析研究室研究員
〃	菅 直 往	(株)日通総合研究所経営研究部 労働科学研究室研究員

\* ( ) は上記委員等の前任者

# 目 次

第1章 調査の概要	
第1節 調査の目的	1
第2節 調査の体系	2
第2章 フェリー貨物流動等の実態	
第1節 調査の概要	5
第2節 航路別背後圏	11
第3節 航路別取扱品目	27
第4節 利用目的・利用理由	31
第3章 フェリー利用荷主・トラック業者の意向調査	
第1節 ヒアリング調査の概要	35
第2節 荷主企業の意向	40
第3節 トラック業者の意向	58
第4章 長距離フェリーの新たな局面	
第1節 最近における長距離フェリーの動向	71
第2節 宮崎県における長距離フェリーの現状	75
第3節 宮崎港への航路シフトとその影響	79
第5章 まとめ	81

詳細は当センターへお問合せ下さい

**(財)九州運輸振興センター**

電 話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp